

2017年度 自己点検・評価【教育学研究科】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日:2018年 2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

| | | | |
|-----|-----------|------|--------|
| 責任者 | 教育学研究科委員長 | 作成部局 | 教育学研究科 |
|-----|-----------|------|--------|

【A票:教育研究目標1】

(タイトル)

「子ども理解」をもとに、人間形成上の諸問題に向き合う教育と研究の推進

(狙い内容)

「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問いながら、生涯にわたる人間形成上の諸問題を解決して導く研究と教育を行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

大学院生が国内外に研究内容を発信し、研究者として自立できる基礎身につけるための教育研究環境を整える。

2. 達成度評価

| | | | |
|------|---------------------------|------|--|
| 評価指標 | 前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)の確保 | 評価尺度 | A : 70%以上 B : 60%以上70%未満 C : 50%以上60%未満 D : 50%未満 |
|------|---------------------------|------|--|

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------------|------------------------|-------------------|----------|-----------|-----------|-----------|
| 2016年度 自己点検・評価時 時点 | | A 入学者数前期6名 後期1名 | A 入学者数前期6名後期1 名) | B 入学者数前期5名後期2名 | A 95% | A 100% | A 100% | A 100% |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度: A~D | A | A | 実績 | A | | | |
| | 見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況) | 入学者数前期6名 後期1名 | 入学者数前期6名後期1 名 | | 70%以上 | | | |

【2017年度の進捗状況について】

本年度入学者数は前期課程が5名(定員6名)、後期課程が2名(定員3名)で、合計7名(定員9名)となり、充足率は78%である。2018年度の9月の一次入試の結果は、受験生が6名いたが、合格者数4名のうち3名が入学手続きを完了している。11月8日(水)、学部の4年生を対象に、教育学研究科の入試説明会を開催して、二次入試の受験生確保を図る予定である。

2017年度 of 取組み状況の確認

| | | | |
|------------------------------|---|-------------------------------------|---------------------------|
| 2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? | → | <input checked="" type="radio"/> はい | <input type="radio"/> いいえ |
|------------------------------|---|-------------------------------------|---------------------------|

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・新規の行動計画が追加されたことが評価できます。大学院の教育と研究の質の向上に向けた更なる今後の進展に期待しています。なお、新規の行動計画は策定した今年度時点ですでにA評価となっています。質向上に向けて、よりチャレンジングな目標値の設定は必要ないでしょうか。(A)
- ・入学者の確保の面で目標を達成されていることは評価できます。継続的に入学者を得るためにも、学習成果の観点からの、具体的な教育研究目標を設定されることが期待されます。(B)
- ・目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(C)
- ・行動計画<新規①>は、3つの項目の記述が入り混じっていてわかりにくいです。記述の工夫が求められます。(D)
- ・教育研究目標における評価尺度である入学者確保と行動計画の関係がわかりません。FD研究会の開催が入学者確保につながるのでしょうか。(E)
- ・既に目標を達成しているので、別の行動計画の設定が期待されます。(F)
- ・大学院の定員充足の問題は全学的な課題ですが、是非引き続き取組みを進めていただくことを期待します。(G)
- ・教育研究目標の評価尺度として、A評価は定員充足率100%とすることが適切であると思われます。
- ・新規の行動計画の策定は評価されますが、教育研究目標の達成に向けて更なる行動計画を立案することが求められます。(I)

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)
研究者養成コースの教育研究目標

(狙い内容)
前期課程「研究者養成コース」では現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し論理的に表現できる教育学・保育学研究者の養成を目的としたコースワークをワークを行い、後期課程への進学につなげる。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

大学院生が国内外に研究内容を発信し、研究者として自立できるよう基礎を身につけられる教育研究環境を整える。

2. 達成度評価

| | | | |
|------|---|------|--|
| 評価指標 | ①入学者数 ②学内外の研究支援制度に応募する学生数 ③前期課程から後期課程への進学者 | 評価尺度 | A : 70%以上 B : 60%以上70%未満 C : 50%以上60%未満 D : 50%未満 |
| | <変更時記入欄> | | <変更時記入欄> A : ①1/2②2③2 B : ①1/3②1③1 C : ①1/4②1③1 D : ①1/5②0③0 |
| | ①入学者数の定員に対する割合 ②学内外の研究支援制度に応募する学生数 ③前期課程から後期課程への進学者 | | |

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|--------------------------------|--------------------|----------------------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 2016年度 自己点検・評価時 点 | | D ②0回/1名 ③なし | A 答申に基づく入試の実 施 (9月, 2月) | C ①1/4②1③1 | B ①1/3②1③1 | B ①1/3②1③1 | A ①1/2②2③2 | A ①1/2②2③2 |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度: A~D | D | A | 見込み | | | | |
| | 見込 実績・ 目標 (値又は 状況) | ②0回/1名 ③なし | 答申に基づく入試の実 施 (9月, 2月) | ①1/2②2③2 | | | | |

【2017年度の進捗状況について】

研究者養成コースの場合、研究基礎科目として開設した6科目をすべてが必修科目となり、将来、研究者として自立するための知識と能力を身に付けることができるカリキュラムとなっている。また、3人の学生が、それぞれの研究調査のためにドイツ、オランダ、イギリスへ研修に行くなど、研究課題に積極的に取り組んでいる。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・すでに研究者養成コースのカリキュラムができあがり順調に進んでいるようですので、更なる質向上に向けてあらたな目標の設定について検討することが期待されます。(A)
- ・教育研究目標の狙い内容の中に「コースワークをワークを行い」とありますが、結果として卒業までに、どのような学習成果をえるのか、という観点から目標も設定することが期待されます。(B)
- ・目標2のタイトルに具体的な目標の内容が記述されていません。その記述が求められます。
- ・目標、行動計画①ともに、評価指標と評価尺度の関係がわかりません。明確な記述が求められます。(D)
- ・行動計画における答申作成が教育研究目標における評価尺度にどのように関係するのかわかりません。また、答申の作成が70%以上という評価尺度はどういう意味でしょうか。7割完成したという意味でしょうか。評価尺度の再考が求められます。(E)
- ・既に目標が達成されるようですので、別の行動計画の設定が期待されます。(F)
- ・目標1と同様に、大学院の定員充足の問題は全学的な課題ですが、是非引き続き取組みを進めていただくことを期待します。(G)
- ・教育研究目標の評価尺度が分かりにくく、見直しが必要です。
- ・新カリキュラムの実施計画は完了しており、教育研究目標の達成に向けて新規の行動計画を立案することが求められます。(I)

【A票：教育研究目標3】

(タイトル)

奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成

(狙い内容)

前期課程「高度教育コース」では、奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成を目的としたコースワークを行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

- ①大学院生が教育研究の調査・実践対象に困ることのないような教育研究環境を整える。
- ②社会の要請に応えられる人材を輩出し、就職ができるように研究科が組織的な支援を行い、教育・保育機関への就職を促す教育研究環境を整える。

2. 達成度評価

| | | | |
|------|--|------|--|
| 評価指標 | ①高度教育コースの入学者数(あるいは定員充足率) ②本研究科の教育・研究に対する保育・教育現場の協力機関数 | 評価尺度 | A : 70%以上 B : 60% C : 50% D : 50%未満 |
| | <変更時記入欄> | | <変更時記入欄> A : ①1/2②2 B : ①1/3②1 C : ①1/4②0 D : ①1/5②0 |

3. 年度毎の目標値

| | | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|-----------------------------------|--------------------------------|----------------|----------------------------------|---|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2016年度 自己点検・評価時 点 | | D ②組織的な支援なし | B 答申に基づく入試の実 施 (9月, 2月) | B 新カリキュラムの実施(初年 度) ①1名以上②1箇所以上 | B ①1/3②1 | B ①1/3②1 | A ①1/2②2 | A ①1/2②2 |
| 2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値 | 評価 尺度: A~D | D | B | 見込み | | | | |
| | 見込 実績・ 目標 (値又は 状況) | ②組織的な支援なし | 答申に基づく入試の実 施 (9月, 2月) | | | | | |

【2017年度の進捗状況について】

高度教育コースの入学者数は2名。フィールドワークのための受け入れ先については、個人的に探すだけでなく実習支援室にも協力してもらって必要な数だけ確保できるようにしていきたい。

<変更理由記入欄: 評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

評価尺度が不明確だったため。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 行動計画①について、今年度末で目標達成されるようですので、次年度以降新たな行動計画の策定について検討することが期待されます。(A)
- ・ 教育研究目標のタイトル「研究マインドを有する高度な実践者の育成」が目標の狙いであって、「コースワークを行う」というのが行動計画であるように思います。検討されることが望まれます。
- ・ 行動計画①における達成度評価の指標が%で記載されていますが、計画の「理論と実践の往還を充実させる」との関係が十分には理解できません。具体的に検証可能な指標を設定することが期待されます。(B)
- ・ 目標、行動計画①ともに、評価指標と評価尺度の関係がわかりません。明確な記述が求められます。(D)
- ・ 行動計画1において、評価指標と評価尺度と進捗評価の関連性がわかりません。教育研究目標における進捗評価(例: 1名)と評価尺度(例: 70%以上)の関係が全くわかりません(1名の70%以上?)。行動計画と教育研究目標の関係もよくわかりません。評価尺度および進捗状況の再考が求められます。(E)
- ・ 高度教育コース入学者確保の具体的な行動計画の策定が期待されます。(F)
- ・ フィールドワークの受入先の確保は容易ではないと思いますが、引き続き組織的に取組みを進めていただくことを期待します。(G)
- ・ 教育研究目標の評価尺度が分かりにくく、見直しが必要です。
- ・ 新カリキュラムの実施計画は完了しており、教育研究目標の達成に向けて新規の行動計画を立案することが求められます。(I)